

栄養教諭教職課程履修学生の教育実習に対する 不安要素に関する研究

短期大学部栄養科 森崎 佳奈
 大学栄養学科 杉本 智紘
 短期大学部栄養科 塩入 輝恵

I. 研究の背景と目的

教育実習は、教職課程認定基準の「教職に関する科目」に位置付けられている。実際の教育現場における観察、体験から、児童・生徒の理解および授業の工夫・在り方を深め、学ぶことを目的としている。教育実習実施時期の多くは卒業学年であり、期間は免許状の種類により異なる。本学の場合は、原則として幼稚園免許、小学校免許の場合は4週間、中学校免許の場合は3～4週間、高等学校免許の場合は2週間、栄養教諭免許の場合には1週間である。この理由としては、栄養教諭は、教育に関する資質と栄養に関する専門性を併せ持つ教育職員として、学校給食を生きた教材として活用した効果的な指導を行なうことが期待され、「食に関する指導」と「学校の給食管理」を一体のものとしてその職務とする専門性に特化した教諭であることから、栄養士課程における校外実習（1週間）または臨地実習（3週間）に加え、教職課程における教育実習が設けられている。

本学では、栄養教諭教育実習校の条件として学校給食を実施している小学校および中学校としている。実習内容は、先に述べた教育実習内容に加え、栄養教諭の職務である「食に関する指導」および「学校の給食管理」のうち、前者に重点をおき、給食時間の食に関する指導、および研究授業の実施を必須とするものである。

学生においては、教育実習に対する期待も大きい不安も伴う。篠原¹⁾が行なった調査によると、教育実習における授業への不安を抱く学生が7割である。また、仲矢ら²⁾の教職課程履修学生を対象に行なった教育実習前の不安「授業実施」に関する項目を含む調査結果によると、この不安感が高いことを示している。このような学生の教育実習事前の不安に関する研究は多くはない。

本研究は、本学の学生を対象に栄養教諭教育実習に際して調査を行ない、栄養教諭教職課程履修学生の教育実習に対する不安要素を明らかにする事を目的とした。

II. 方法

1) 調査対象

表1に示すとおり、大学管理栄養士専攻4年生（大4管）、大学栄養学専攻4年生（大4栄）、短期大学部栄養科2年生（短2）、短期大学部栄養科1年生（短1）合計212名以下（ ）内の表記とする。

	全体	教育実習実施学年			人数
		大4管	大4栄	短2	参考
					(次年度教育実習学年)
		大4管	大4栄	短2	短1
平成25年	36	-	-	-	36
平成26年	21	-	-	-	21
平成27年	87	49	38	-	-
平成28年	68	29	21	18	-
合計	212	78	59	18	57

2) 調査時期および場面

平成25～平成28年までの各年4月。

「栄養教諭教育実習の研究」の初回授業時。

3) 調査方法

- ・自記式の調査票を用いたアンケート
- ・調査票「栄養教諭教育実習に際しての不安事項について」(40項目)別紙のとおり
- ・回答時間10分程度

2. 調査内容

調査項目については、平成22～24年度における教育実習手帳記録および授業内ワークシート記載内容から抽出したものである。また、項目文に含まれるキーワード、内容を以下の6つの不安要素に分類した。

()内は調査紙上の設問番号と数である。

【6つの不安要素】

- | |
|---------------------------------------|
| i. 実習環境 (No.1～11：11問) |
| ii. 自分自身 (No.12～20：9問) |
| iii. コミュニケーション (No.21～23：3問) |
| iv. 児童・生徒に関わること (No.24～28：5問) |
| v. 研究授業学習指導案の作成・実施にあたって (No.29～37：9問) |
| vi. その他 (No.38～40：3問) |

3. 分析

6つの不安要素について大4管、大4栄、短2、短1別に比較検討した。

なお、合わせて大4管、大4栄、短2を教育実習実施学年、短1を参考(次年度教育実習学年)別でも比較検討した。

統計解析には、カイ二乗検定を用いて有意水準5%未満を有意とした。

Ⅲ. 結果

1. 栄養教諭教育実習に際して学生が抱えている不安事項について

表2は調査紙上の各設問に対する該当学生数および割合を示したものである。

不安に感じている項目は、「29.自分は対象者に適切な授業ができるか」(84.9%)、次いで「30.自分は対象者にわかりやすい授業ができるか」(84.0%)、「32.自分がする授業の指導内容は対象者にきちんと伝わるか」(79.7%)、「34.自分は対象者が興味を持つような授業ができるか」(78.3%)、「14.自分は説得力ある話し方ができるか」(77.8%)の順に高かった。

表2 「栄養教諭教育実習に際しての不安事項について」各設問に対する該当学生数および% 人数：%

6分類	設問No.	順位	全体 n=212	教育実習実施学年						参考 (次年度教育実習学年)		p値	
				大4管 n=78		大4栄 n=59		短2 n=18		短1 n=57			
i	1	15	113	53.3	46	59.0	33	55.9	12	66.7	22	38.6	0.060
	2	32	50	23.6	23	29.5	16	27.1	2	11.1	9	15.8	0.243
	3	30	56	26.4	20	25.6	22	37.3	3	16.7	11	19.3	0.355
	4	20	91	42.9	37	47.4	27	45.8	8	44.4	19	33.3	0.581
	5	37	16	7.5	9	11.5	4	6.8	0	0	3	5.3	0.379
	6	23	76	35.8	26	33.3	16	27.1	11	61.1	23	40.4	0.053
	7	16	110	51.9	39	50.0	26	44.1	11	61.1	34	59.6	0.315
	8	35	37	17.5	9	11.5	6	10.2	6	33.3	16	28.1	0.009 ^{**}
	9	12	133	62.7	48	61.5	33	55.9	16	88.9	36	63.2	0.090
	10	23	76	35.8	30	38.5	21	35.6	10	55.6	15	26.3	0.137
	11	11	136	64.2	52	66.7	34	57.6	13	72.2	37	64.9	0.608
ii	12	17	101	47.6	36	46.2	28	47.5	8	44.4	29	50.9	0.944
	13	8	157	74.1	59	75.6	42	71.2	12	66.7	44	77.2	0.763
	14	5	165	77.8	60	76.9	43	72.9	14	77.8	48	84.2	0.528
	15	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	16	34	39	18.4	11	14.1	12	20.3	4	22.2	12	21.1	0.671
	17	36	30	14.2	8	10.3	5	8.5	6	33.3	11	19.3	0.026 [*]
	18	30	56	26.4	19	24.4	14	23.7	6	33.3	17	29.8	0.760
	19	14	115	54.2	48	61.5	29	49.2	12	66.7	26	45.6	0.163
	20	13	127	59.9	47	60.3	33	55.9	11	61.1	36	63.2	0.884
	iii	21	29	58	27.4	17	21.8	15	25.4	8	44.4	18	31.6
22		28	60	28.3	21	26.9	15	25.4	6	33.3	18	31.6	0.840
23		19	92	43.4	33	42.3	26	44.1	11	61.1	22	38.6	0.410
iv	24	9	156	73.6	60	76.9	36	61.0	16	88.9	44	77.2	0.051
	25	33	49	23.1	21	26.9	13	22.0	6	33.3	9	15.8	0.327
	26	26	65	30.7	27	34.6	14	23.7	5	27.8	19	33.3	0.538
	27	18	98	46.2	27	34.6	28	47.5	13	72.2	30	52.6	0.018 [*]
	28	26	65	30.7	19	24.4	16	27.1	11	61.1	19	33.3	0.020 [*]
v	29	1	180	84.9	68	87.2	45	76.3	17	94.4	50	87.7	0.146
	30	2	178	84.0	66	84.6	43	72.9	17	94.4	52	91.2	0.028 [*]
	31	7	158	74.5	55	70.5	38	64.4	14	77.8	51	89.5	0.014 [*]
	32	3	169	79.7	59	75.6	45	76.3	16	88.9	49	86.0	0.315
	33	10	141	66.5	52	66.7	38	64.4	15	83.3	36	63.2	0.441
	34	4	166	78.3	61	78.2	40	67.8	17	94.4	48	84.2	0.051
	35	6	162	76.4	55	70.5	45	76.3	16	88.9	46	80.7	0.303
	36	20	91	42.9	35	44.9	21	35.6	12	66.7	23	40.4	0.127
	37	22	82	38.7	34	43.6	18	30.5	11	61.1	19	33.3	0.073
vi	38	25	70	33.0	21	26.9	18	30.5	7	38.9	24	42.1	0.274
	39	38	8	3.8	2	2.6	2	3.4	3	16.7	1	1.8	0.027 [*]
	40	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2. 栄養教諭教育実習に際しての学生が抱えている不安要素6分類の比較

表3は6分類について大4管, 大4栄, 短2, 短1を示したものである。

- (1) 全体については、「v.研究授業学習指導案の作成・実施にあたって」が69.5%と最も高かった。これに対して「iii.コミュニケーション」が33.0%で低かった。
- (2) 専攻別については、教育実習実施学年の大4管と大4栄を比較すると、「v.研究授業学習指導案の作成・実施にあたって」が高率であり、前者は69.1%、後者は62.7%であった。短大における教育実習実施学年と次年度教育実習学年を比較すると、短2は「ii.自分自身」が最も低く、短1は「iii.コミュニケーション」が最も低かった。また、どの分類においても割合が短2で高くなり、不安感が増加していることがわかった。

表3「栄養教諭教育実習に際しての不安事項について」6分類の専攻別割合 %

	全体 n=212	教育実習実施学年			参考 (次年度教育実習学年)
		大4管 n=78	大4栄 n=59	短2 n=18	短1 n=57
i.実習環境(No.1～11)	38.3	39.5	36.7	46.5	34.9
ii.自分自身(No.12～20)	41.4	41.0	38.8	45.1	43.5
iii.コミュニケーション (No.21～23)	33.0	30.3	31.6	46.3	33.9
iv.児童・生徒に関わること (No.24～28)	40.8	39.5	36.3	56.7	42.5
v.研究授業学習指導案の 作成・実施にあたって (No.29～37)	69.5	69.1	62.7	83.3	72.9
vi.その他(No.38～40)	12.3	9.8	11.3	18.5	14.6

3. 大4管, 大4栄, 短2, 短1比較

大4管, 大4栄, 短2, 短1比較分析により、有意差が認められた項目について図1-1から1-7に示した。

「8.実習校で他の教育実習生徒と仲良くなれるか」(図1-1)をみると、大4管と大4栄がほぼ同じ率で、短2と短1が近い値であった。学部と短大で不安感に差がみられた($p=0.009$)。「17.自分は子ども達を理解する方法がわからない」(図1-2)をみると、短2が33.3%と最も不安感が高かった。これに対して大4管, 大4栄, 短1では近い値であった($p=0.026$)。「27.子ども達は自分を先生として受け入れてくれるか」(図1-3)をみると、大4栄と短1で「不安に感じている学生」と「不安を感じていない学生」が逆転する結果であった($p=0.018$)。「28.自分の周りに子ども達が来てくれるか」(図1-4)をみると、大4管, 大4栄, 短1では、ほぼ近い結果であった。短2は61.1%と他の専攻よりも高かった($p=0.020$)。「30.自分は対象者にわかりやすい授業ができるか」(図1-5)をみると、どの専攻でも不安感を抱えていることがわかる。短2が94.4%と最も高い不安感を抱えていることがわかった。それに比べ、大4栄は72.9%と低かった($p=0.028$)。「31.自分は対象者に面白い授業ができるか」(図1-6)をみると、短1が89.5%と最も高かった。教育実習実施学年では、ほぼ近い結果がみられた($p=0.014$)。「39.実習中に倒れないか」($p=0.027$) (図1-7)をみると、他の専攻よりも短2が16.7%で高かった($p=0.027$)。

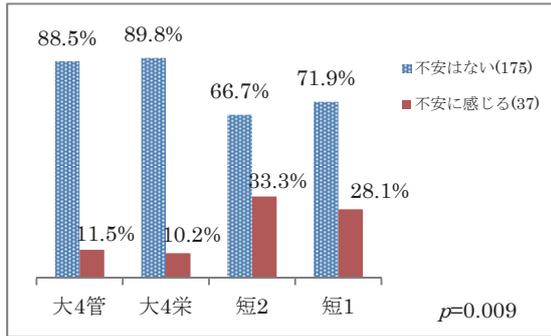


図 1-1 「8.実習校で他の教育実習生徒と仲良くなれるか」

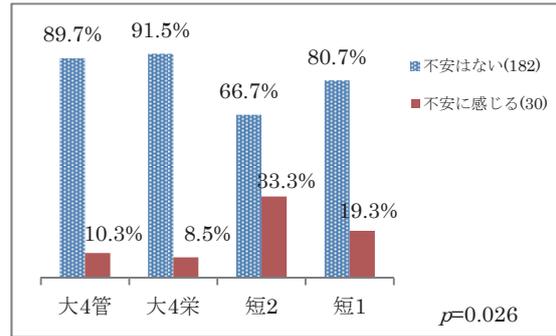


図 1-2 「17.自分は子ども達を理解する方法がわからない」

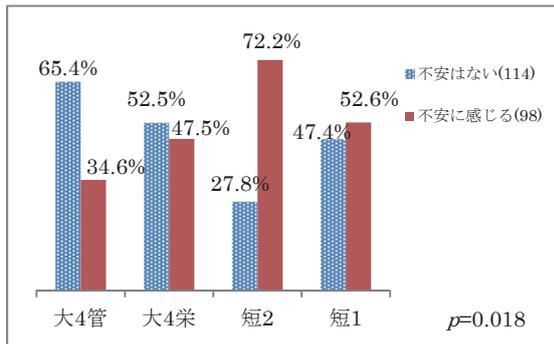


図 1-3 「27.子ども達は自分を先生として受け入れてくれるか」

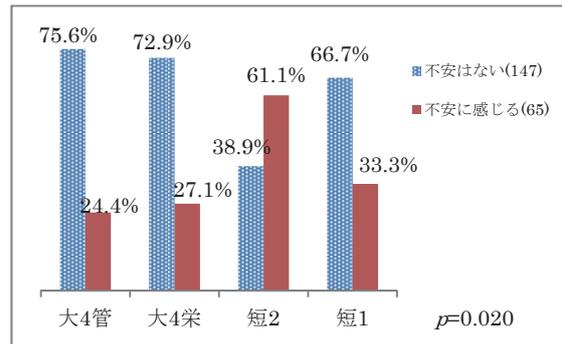


図 1-4 「28.自分の周りに子ども達が来てくれるか」

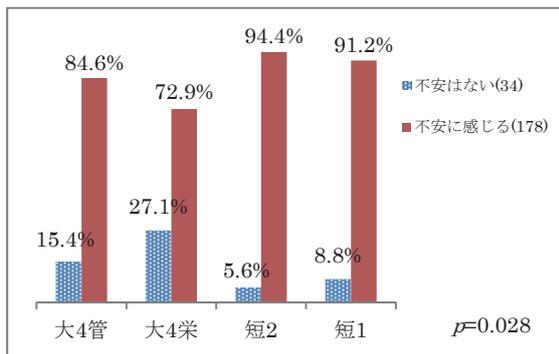


図 1-5 「30.自分は対象者にわかりやすい授業ができるか」

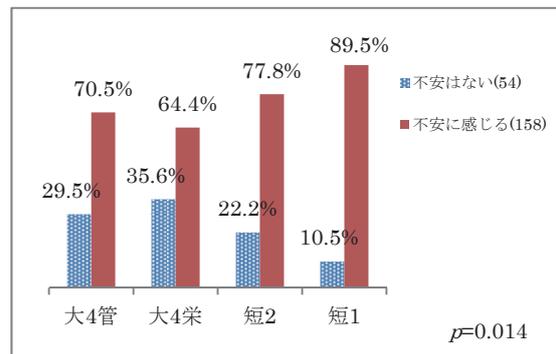


図 1-6 「31.自分は対象者に面白い授業ができるか」

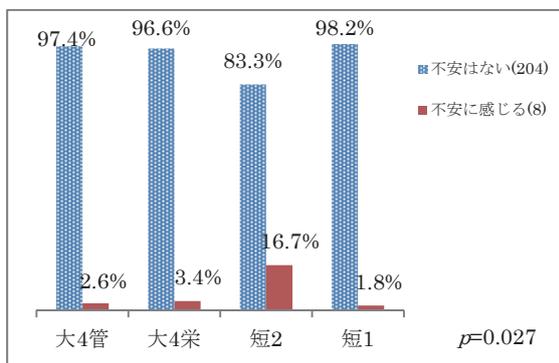


図 1-7 「39.実習中に倒れないか」

図 1 栄養教諭教職課程履修学生の教育実習前の不安要素 (専攻別: 有意差認項目のみ表示)

調査票

栄養教諭教育実習に際しての不安事項について(該当項目にチェックする)

1. () 実習校に栄養教諭がいない
2. () 実習校に学校栄養士がいない
3. () 実習校は栄養教諭の理解と認識がない
4. () 実習校は栄養教諭実習の受入れたことがない初めて
5. () 実習校は栄養教諭実習受入れにおいてためらいがある
6. () 実習校で職場の雰囲気に合わせてことができるか
7. () 実習校で指導教員との意思の疎通ができるか
8. () 実習校で他の教育実習生徒と仲良くなれるか
9. () 実習校で失礼のないように接することができるか
10. () 実習校できちんとした挨拶ができるか
11. () 実習校で問題が発生したときの対処方法がわからない
12. () 自分は大勢の前で話すことが苦手である
13. () 自分は緊張してしまう
14. () 自分は説得力ある話し方ができるか
15. () 自分は学校給食を食べた経験がない
16. () 自分は子ども達との接し方がわからない
17. () 自分は子ども達を理解する方法がわからない
18. () 自分は子ども達と向き合えるか
19. () 自分は子ども達の顔や名前を覚えられるか
20. () 自分は子ども達一人ひとりのことを把握できるか
21. () 自分は子ども達と仲良くなれるか
22. () 自分は子ども達とコミュニケーションがとることができるか
23. () 自分は子ども達と信頼関係が築くことができるか
24. () 自分は子ども達と先生の視点で触れ合うことができるか
25. () 自分は子ども達の話題についていくことができるか
26. () 自分は子ども達を傷つけてしまうような発言をしてしまわないか
27. () 子ども達は自分を先生として受け入れてくれるか
28. () 自分の周りに子ども達が来てくれるか
29. () 自分は対象者に適切な授業ができるか
30. () 自分は対象者にわかりやすい授業ができるか
31. () 自分は対象者に面白い授業ができるか
32. () 自分がする授業の指導内容は対象者にきちんと伝わるか
33. () 自分は対象者が求めているものを与えることができるか
34. () 自分は対象者が興味を持つような授業ができるか
35. () 自分の授業を対象者が飽きずに聞いてくれるか
36. () 自分の授業で対象者が「食」にどのくらい興味を持っているか
37. () 対象者は「栄養」の知識をどのくらい持っているか
38. () 実習ノート(教育実習手帳)が書けるか
39. () 実習中に倒れないか
40. () 不安はない(不安を感じない)

大学4年 管士・栄養 短大 ____クラス 学籍番号_____ 氏名_____

IV. 考察

本研究は、栄養教諭教職課程履修学生の教育実習に対する不安要素を明らかにするために調査を行ない指導の一助とするものである。篠原¹⁾は、大学3・4年生を対象に教育実習に関する事前調査を実施している。本調査対象の学年とは異なるものの、全体で約95%の学生が教育実習に対して何らかの「不安感」を抱いているとの調査報告をしている。本研究結果でも、学生全員が何らかの「不安」を抱いている現状であった。

清水ら³⁾は、教育実習開始頃に、子どもへの関わり方を理由とする不安については、すぐに解消される傾向にある一方で、学習指導への見通しがもてなかったり、学習指導案の作成等の教材研究が十分にできなかったりすることが強い不安感をもつ原因であることを示唆している。本調査結果でも、40項目の設問の中で、“自分”が主体となる項目の不安感が高かった。教育実習中に自身が担当する研究授業の教科範囲を知る時期は、実習開始1ヶ月前であることも少なくない。そのため、具体的な準備をする期間が短い状況に不安感を強く抱くのではないかと考えられる。栄養教諭教育実習の場合は、研究授業に加え、給食時間の食に関する指導も実践するため、教育実習校と綿密な連絡調整を行ない、予め過去の献立表や食に関する指導の全体計画や年間計画から教育実習校の食に関する指導の取り組みについても事前に調べておくことが必要である。

また、学生は学習指導案の作成や授業実施など研究授業に対して最も不安を抱いていた。この不安を軽減させるための対策の1つとして、篠原¹⁾は、「経験」と「情報収集」というキーワードをあげている。経験を積む場としては、様々であるが、大学の講義では、学習指導案の作成から模擬授業実施までを行なっている。さらに教育実習先でのボランティア活動を促している。また、ボランティア活動を勧める意図は、子どもとの関わりに慣れ、学校を知ることを最大の目的としている。具体的には、児童・生徒の実態を把握することであり、教育実習期間中の研究授業に際しての情報収集の意味も含むものである。教育実習実施学年の学部生と短大生を比べてみたところ、学部生より短大生の方が不安を抱いていたことがわかった。学部生は大学生生活3年間の期間を経て教育実習へ臨むが、短大生は1年間と短い。事前準備における知識の習得や心構えにかかる時間的な長短に影響されるものと考えられる。学生において教育実習は初めての経験ということもあり、どのような情報収集を行なうべきか悩む者もいると考えられる。

今年度より、教員養成教育推進室栄養教諭部門では、既に教育実習を終えた学生の実習記録をまとめた「栄養教諭教育実習報告集」を作成し、次年度教育実習を予定している学生への配布準備を進めている。この冊子は、教育実習を経験した先輩からの教育実習内容およびアドバイスも記載されており、教育実習への不安解消の一助にもなる。

平成17年4月に栄養教諭が配置され、現在12年目を迎える。11年目を経た今でも、栄養教諭の配置状況は、都道府県により異なっている。そのため、栄養教諭教育実習校に栄養教諭が在籍していないことが少なくない状況の中で、学生一人ひとりへの対応の充実を目標としていきたい。

V. 結論

本研究は、栄養教諭教職課程履修学生の教育実習に対する不安感を解消するための指導の一助として、4年間にわたる調査から本学の栄養教諭教職課程履修学生の教育実習に対する不安要素を明らかにした。

栄養教諭教育実習事前における不安を軽減するため、ボランティア活動の推奨や関係資料の提供などを含めた指導と共に、個別対応にも力を入れていきたい。

謝辞

本研究に関する調査にご協力いただきました平成25～28年度の大学管理栄養士専攻および栄養学専攻4年生、短期大学部栄養科2年生、1年生に在籍した栄養教諭教職課程履修学生の皆様に深く感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 篠原 一彦 (2014), 教育実習生の不安に関する一考察, 佐賀大学教育実践研究, 第31号, 225-235
- 2) 仲矢 明孝, 三島 知剛, 高旗 浩志, 稲田 修一, 後藤 大輔 (2015), 3年次教育実習に関する学生の意識の検討—平成25年度受講生アンケートの結果から—, 岡山大学教師教育開発センター紀要, 第5号, 別冊, 26-34
- 3) 清水 秀夫, 大濱 孝子, 熊谷 崇久, 植木 文貴, 吉井 健人 (2011), 教育実習生がもつ本実習中の不安に関する考察, 群馬大学教育実践研究, 別刷, 第28号, 301-308